令和４年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・授業内容に精選により、生徒の興味・関心を深め、主体的に学習する生徒が増えた。
・授業の学習課題を明確にし、達成感をもたせることができた。
・グループワークを取り入れ、他者との関わりの中で自分の意見を表現することができた。

（２）　課題

・生徒によって知識の定着に差がある。
・地図、年表、雨温図、統計などの様々な資料を読み取る力をさらに強化する。
・社会科として思考力の増強をさらに進める。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第１学年	目標値を上回っている。		
第２学年	目標値を上回っている。前年度より数値がやや高くなっている。	目標値を上回っている （第１学年時）	
第３学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。前年度より数値が高くなっている。 （第２学年時）	目標値を上回っている。 （第１学年時）

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

②　第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

③　第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値をわずかに下回っている。	目標値をわずかに上回っている。

３　授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての基本となる、基礎的な知識の定着のため、反復学習を中心に、授業展開の改善を行う。	資料活用に戸惑う生徒が多いため、単元ごとに資料読解の時間を作って応用力を高める。	既習事項を上手に活用できている生徒が多いため、さらに学習意欲を引き出すような授業展開や、家庭学習の充実を図る。

（２）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを行い基礎・基本となる知識の定着を図っていく。また、ＩＣＴ機器を用いて復習の機会を設ける。	授業内で取り扱う資料を精選し、その資料から読み取れることを表現する機会を設ける。また、調べた内容を発表する機会も設ける。	授業に取り組む際の目標を生徒に決めさせ、授業の最後に自己評価させる。 また、理解が不十分な内容に積極的に取り組んでいるかを評価する。

（３）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやワーク学習を復習確認の位置づけで適宜行っていく。また、ＩＣＴ機器を用いて復習の機会を設ける。	授業で取り上げる教科書を中心とした資料から読み取れる事柄や内容を、口頭や文章で発表する機会を多く設けることで、重点的に指導する。	積極的に取組んでいる事実や成果を評価し、やる気を喚起する。 授業での自己目標を立てさせ、授業のまとめの中で自己評価させる。